

平成 27 年度 第 5 回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成 27 年 11 月 26 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

【開催場所】：教育委員会 2 階会議室

【出席者】：審議会委員 16 名

阪根委員、大岩委員、木下委員、木村委員、先田委員、佐藤委員、
大黒委員、高田委員、多智花委員、西川委員、延本委員、藤井委員、
矢金委員、矢野委員、山田委員、山本委員

鳴門市 9 名

教育次長、教育総務課長、生涯学習人権課長、体育振興室長、学校教育
課主幹、学校教育課長、副課長、事務局 2 名

傍聴者 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 基本構想について
 - (2) 基本計画について
- 4 その他
- 5 閉 会

○会議資料

次第

- 【資料 1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧（H27. 11. 26 現在）
- 【資料 2】 平成 27 年度第 4 回教育振興計画審議会会議概要（前回会議録）
- 【資料 3】 第二期鳴門市教育振興計画（素案）
- 【資料 4】 基本理念の記載方法について
- 【資料 5】 今後のスケジュールについて
- 【参考資料】 教育大綱と教育振興計画について

○会議概要

1 開会

2 阪根会長があいさつを行った。

3 議事

議事（1）基本構想について

事務局より、資料3（P.1～P.29 修正箇所）・資料4・参考資料について説明をした。

会 長

全体的な大綱との関わりとあわせて、基本的な方針ということで、皆さんがやってきたものということで説明させていただいたが、N委員いかがか。

N委員

共育を使って頂いて非常に満足している。（案の）どれになってもいいと思う。人それぞれ「ともに」というのは、いろいろな取り方がある。とても幅広い。幅広いからこそ、基本理念に採用頂きよかったと思う。

会 長

（新聞報道によると）総合教育会議で、教育大綱の基本理念で言われたのは、事務局より説明する時間がなかったため、「ともに」が誰を指しているのかということになった。的外れではないが、我々の審議とは少し次元の違った話であり、市長は反対しているというわけではないと聞いている。

議事（2）基本計画について

事務局より、資料3（P.30～P.59 修正箇所）について説明をした。

会 長

皆さんのご意見を多岐に渡って確認し修正をした。これから皆さんに事前に見て頂き、ご意見を賜り、パブリックコメントにかけたいと思っている。大きな発言としてはこれが最後になるため、皆さんのご意見がどこまで反映できているか等、皆さんのご意見をいただきたい。

U委員

P.51 からのスポーツを主に見ている。運動・スポーツという言葉に変えたということでよいかと思う。施設にしても県の総合運動公園、ほとんどの施設が鳴門に集中しており、教育大にもあるということで、今年初めてマラソン実施の運びにもなった。地域一体となって運動・スポーツを継続して頂きたいと思っている。体育協会では加盟団体でなくても、優秀な選手等は表彰していきたい。一番開かれた公共施設を一般の方も早朝から使用しているのは全国でも鳴門だけではないだろうか。また、少年少女のサッカーの試合をJリーグ使用のサッカー場で行っているのも鳴門だけではないだろうか。シーズン中であろうがなんであろうがやっていることは整備も必要ではあるが、施設を作っても利用しなければ宝の持ち腐れになる。大活

躍をしている施設だと思う。どんどん利用していったらいいと思う。運動・スポーツの文章内容はこれくらいでよいと思う。これからの課題としては、人口減少、対象者が少なくなるということである。80万を切った県民すべての人が考えることが必要である。競技においては全国で戦うことが難しくなるため、真剣に考えることが必要だろう。

V委員

私の住んでいるところはK町のため、K町に視点をあてたところはどこをどうしてくれるのかということを感じた。まずP.26の期待される役割(図)について、うずまき状に見ていくのか。同心円状に見ていくのか。わからないため教えて頂きたい。

事務局

家庭を真ん中に置き、家庭をサポートする学校等があり、うずまきというよりは同心円状、3段階の広がりになっている。白黒でわかりにくいですがグラデーションで表現している。

V委員

私からすれば、地域があり、中心に家庭があるのかと思った。私たちの地域は学校がなくなったため、なくなったときの家庭の役割は大変である。地域の役割もこれまでできていたことがなくなってしまう。そのような現実の中でこの図を見たとき、そして、統合という状態で、私たちの中には統合に反対する者もいれば、賛成の者もいる。そうするとK町の人たちは地域で関われないのである。そのため、何が中心に来るかという、家庭よりむしろ学校を中心に期待しながら、少しでもできることを関わっていこうと思う。ゆくゆくは家庭が1番大切なため、家庭が中心に来ているのだと思う。家庭の役割は、「バスがないから迎えに来てほしい」と今までにはなかったことが生じている。家庭で迎えに行ける人がいない場合は、誰がするのだろうか。そのあたりが今までとは全く異なってきている。K町の現状は、この図の中に入れてくれているのだろうかと感じた。配慮して入れるところは入れてもらいたい。もう1つは、環境教育の中で、鳴門市は自然環境が大変豊かである。世界遺産を目指す渦潮を子どもたちは本当に見たことがあるのだろうか。大麻山が鳴門市で一番高い山であるが、県の森づくり推進機構において取組があり、子ども達が原生林を通りながら、地域全体を上から見渡し、どういう環境になっているのかを見たり、あるいは、学校周辺の環境がどのようになっているのか(野鳥がなぜやってくるのか等)、自然環境教育を少しでも入れて頂ければと思う。鳴門市の豊かな自然環境に対する環境教育をどこかに入れて頂けると郷土愛にもなるためありがたい。

会長

環境教育については少し検討材料になるかもしれない。学校統廃合の問題ではいろいろな思いがあると思う。

B委員

P. 26 図において、地域の文字が白抜きになっていないため、見えにくいかと思うため、直して頂きたい。P. 27 (2) 自ら学ぶ力を育む教育の推進の③について、後半はP. 28 の(6) まちぐるみの教育の推進の①に「適正規模や適性配置」と書いてあり内容が重なるため、不要なのではないか。P. 42 (4) 家庭教育の推進の現状3つ目に「子どもがいる世帯でも生活に困窮する家庭が増加しており」とあり、「子どもがいる世帯においても」の方がいいのではないか。偏りのない表現にして頂ければと思う。P. 30 以降に「成果目標・成果指標」が新たに入っているが、入れなくてはいけないものなのか。苦しい感じがする。保護者の満足度を向上させることが「成果目標・成果指標」になっているものが多数あるが、「課題」や「主な取り組み」との整合性がとれていないものもあるので、見直して欲しい。

会 長

入れることが必須というわけではないが、入れる方が好ましい。とはいえ、行政がこれを書くとき苦し紛れのところも出てくる。今日のご意見を伺い、修正すべきところは修正したいと思っている。文言のご指摘はありがたい。今のように率直にご意見をいただければと思う。

R委員

P. 49 いじめ、不登校への対応について、先生方もいじめに対して、取組をしているが、中学校の娘が口にしてるのは、大きないじめはないが、小さいいじめのようなもの（無視等）があるようだ。先生方もいろいろ力を尽くしてくださっていると思うが、もっといい方法はないだろうかと思う。大きな問題になっていないことでも、ひとりでも（無視されるようなことが）なくなればと思う。そうしたことも含めて、細かい方法を考えて頂き、保護者も子どもから現状を聞き出し、寄り添っていくことが必要だと思う。

会 長

いじめの対応について、もう少し突っ込んだところまで踏み込んで頂ければありがたいということだろう。

G委員

鳴門市がどういうことをしているのかが、よく表記されていると思う。

K委員

立派な計画書ができあがったと思う。P. 26 の「地域」において、2つ目の文言で「地域ならではの体験や学習をする機会を提供する」とある。先日、地域交流会があり大事だと思い、今後も勧めていきたいと感じた。基本方針に則りやっていきたいと思う。基本理念について、「ともに」を「共に」にしたなら、共育とかかかっていいのではないだろうか。

会 長

頭に漢字を持ってくると、次の「共育」とのバッティングがある。真ん中の「育ち」

は「共育」と読み仮名が異なるため、同じ漢字でもよいだろうということになった。例えば、新聞の見出しは同じ漢字を2つ載せず片一方を平仮名にするため、平仮名の「ともに」となった。

事務局

先日の総合教育会議で、資料4、基本理念⑥の案で出させて頂いた際、まず、カッコ書きがどうかということ、「共育」はいいという話と、「ともに」の説明が大綱にはなかったため「ともに」がわかりにくいという意見があった。共育という言葉を用いなくても⑦「共に育ち合う教育のまち鳴門」もいいのではというご意見もあった。どれがいいか事務局でも検討した結果、「共育」という言葉を広げていくなれば、①で推していくことがいいのかということになった。⑦のように「共」を使用することも検討したが、そうすると「共育」と重なってしまうため、①でどうかと提案させて頂いた。

S委員

P. 55 について、O町では大谷焼等があり、毎年秋には大谷焼窯まつりがある。私の子どもの頃と異なり、今は校区の子どもたちが自分たちで焼き物を焼き販売する試みがあり非常によいと思う。地元には大谷焼や歴史ある地域のため、「文化財の継承と活用」はいいものかと思う。こういったことを今後も残していけるよう推進していきたい。

会 長

文化財はまさに誇りであると思う。

O委員

素晴らしい計画案だと思う。問題はこれを誰がするのかということである。持続するのは校長、教育委員会、それを支えるのが我々市民である。そこのところかどのように動くかということである。実行する人がどれだけ情熱と愛情を持って取り組むか、市民がどのように支えるかということである。地域で育てること、お互いに愛情を持って頑張っていくことが必要である。

会 長

最近、私の大学でT県A市とM市の間にサテライト室を置いている。M小学校が再来年建つ予定で、5つの小学校の統合である。当然、生みの苦しみは相当あったのだろうと思い、地域の集まりへの声がかかり、先週夜M市へ伺った。みんなで子どもを育てていきましょうという話をしようと思っていたところ、校長先生が「正直、小さな学校の集合体のため、何人集まるかわからない。各地域から集まってくるため、へたすると20~30人の小さな会になるかもしれないから勘弁してほしい。」と言われた。ところが、行ってみると体育館一杯で130人いらっしやった。学校の先生がびっくりしているくらいである。保護者みんなで子ども達を育てないといけないという思いがある。先生方も来られている。これは勝負だと思った。みんなでやっていくという気構えが必要である。今回の計画も絵に描いた餅にならないように、肝に銘じてやっていきたいと思う。

N委員

鳴門教育大の先生方の言葉は専門的でさすがだと感心する。また、皆さんが言われた意見も事務局の方でうまくまとめて頂き非常に感心している。P. 32 の新学校給食センターの早期完成について、積極的な情報提供、保護者等の疑問や不安の解消とある。私の近所に新センターが立地予定で、1回説明会が行われた後、進展状況が全く分からない。立地予定周辺は産物がいろいろあり、近くには川がある。その川から、農産物へ水を供給している。そういったことも踏まえ、近いうちに、今後の予定を地元にも状況説明をして頂きたい。情報提供を地元にもお願いしたい。総合計画は5年、10年の期間で考えていくとなっているが、その中に、給食センターの早期完成があるのは、だいぶ先の話ということなのか。

総務課長

予算計上をしており本来なら今年度建てているはずだったが、国の補助金が認められず、市として1年遅らせることとなり、来年度に向けて取組をさせて頂いている状況である。建設事業としては予定通りいけば、来年の夏から建てて、再来年の夏には稼働させる予定である。給食センターは建てたら終わりではなく、きちんと運営すること、安心・安全な給食を提供し続けるために、今後も勉強し直し、調べ直し、対応を変えていくこともあるだろうと考えている。単純な建設事業ではなく、きちんと動かし、ニーズに応えていくために、この計画に入れさせて頂いている。地域の皆さんにはもう少し広く情報提供できるようにしていきたい。

N委員

P. 58 の学校評議員制度について、課題としても効果的な運用を図っていききたいと書いてある。私も小中学校の評議員をしているが、アンケート用紙がいつも配られる。もう少し、小中学校独自のアンケート項目があってもよいのではないだろうか。拡大し枠を広げ、評議員に現状の課題・取組について学校側の表現を加え、アンケート結果報告だけでなく、どういったことを推進・充実させるのかという表現があってもよいのではないだろうか。「共育」という言葉は15～16年前に地域で初めて出した。その頃からあたためてきたものであり、今になって公の場で頂き非常にありがたいと思う。

会 長

給食センターも含め、様々な課題があるため、意識をして頂きたい。学校評議員制度も1つ間違えば、形ばかりになってしまうため、コミュニティ・スクールにどうつなげていくのかということが大切である。

Q委員

P. 26 (図)にある家庭について、「規律や自立心を育てる」とあり、家庭で親の背中を見て子は育つ。家庭が一番大切である。家庭の中で、一番大切なのは道徳心だと思う。地域が協力し、学校が教育することが大事ではないだろうか。スポーツについて、地域が主催して、地域の親睦、世代間交流等、地域と学校、様々な人との巡り合いが大切である。チャレンジデーにおいて、皆が15分間体を動かすことが

定着してきている。市民全員が運動・スポーツ、散歩等をする習慣がどんどん広まればよい。スポーツをするとなると設備が必要となるが、チャレンジデーのような市民が月に1回でも運動する習慣を広げていきたい。

会 長

2月中旬に本学でリレーマラソンがある。発想としては、鳴門と同じように小規模都市だが大学を持っているようなところの実例を参考にし、我々が鳴門に協力できることを考え、開催することとなった。大学を持っている中小都市はそうたくさんはない。そう考えるとスポーツ等、いろいろな連携ができればと感じている。

F 委員

この会については、事務局の案のみではなく、皆さんの意見を多く取り入れて下さって本当にいい内容になり、素晴らしい素案だと思う。P. 51 の現状について、「過去1年間にスポーツを」と書いてあるが、下の成果目標・成果指標のところには「過去1年間の運動・スポーツ」とある。現状に「運動」が入っていないのは、アンケートで「スポーツをしたか」ということを集計したためということか。

事務局

この部分はスポーツ推進計画から引用しており、スポーツ振興計画ではスポーツの定義を身体活動を含むようになっており、私たちが運動と呼んでいることを含んでいることになる。現状部分のスポーツというのは、運動も含まれているという意味合いとなる。

F 委員

P. 36 の外国語教育について、「小学校外国語活動の充実に向けて、外国語活動支援員等を配置し、豊かな授業づくりに努めます。」と書いてある。昨日のNHKニュースで、H小学校では、外国語活動について放送があった。これは、これからの取組ではなく、もうすでに行っている現状ではないのか。

事務局

A L Tはすでに配置されている。「努めます」という文言だと、今後努めるという取り方をされるかもしれない。「拡充している」といった表現に変更したいと思う。

I 委員

P. 26 について、学校が地域におり家庭とやりながら、地域と行政が教育を支えていくというイメージでいいのだろうか。地域について、開かれた学校づくりにも地域が含まれる。文言には出てくるが、施策体系や基本方針の中に、地域のことについて、何か1つ書けないだろうか。P. 44、公民館活動の推進について、課題の3番目、「保護者の要望が高くない」とあるが、「低い」でいいのではないだろうか。また、成果目標・成果指標について、子どもの参加割合を増やすとあるが、公民館の課題はこれだけではない。まだまだ大きな問題がたくさんあると思う。これだけで問題が解決されるわけではないだろう。公民館活動の推進について、箇条書きではなく、もう少し具体的に書いた方が、別の文言の方がいいのではないだろうか。学

校教育についてかなり書かれてある。読書活動について、一般の人も読めるような環境づくりについて記載頂けるとありがたい。最後のまちぐるみの教育の推進について、(3) 教育制度の充実において、これはまちぐるみとどのような関係があるのか。ここに地域の関係することを記載頂き、教育制度の推進は、基本目標3（豊かな心を育む教育の推進）のところに入れた方がいいのではないだろうか。P. 39のキャリア教育について、見る人が対象のため、どういう人が見るかによって、ICT教育等、内容がわかりにくくなる。中学卒業ぐらいのレベルでもわかるようにするなら、もう少し表現を柔らかくした方がいいのではないだろうか。

会 長

場合によっては、文言説明も必要だろう。学校教育が多いと言われたが、徳島県の特色ではないだろうか。

H委員

P. 33について、同じ言葉が2つ書かれてある。課題の「家庭や学校において～」が2つある。(⇒重複のため1つは削除) P. 43について、「地域で生かすことができる」と修正して下さったことはありがたい。地域で本当に生かしていると私たちは思っている。幼稚園、小学校には昔の遊び支援を行っている。その際、小さなお菓子を子ども達に持っていく。遊びも終わり、紙芝居も終わると、お礼状を送って下さる。そこに何が一番に書いてあるかというところ、「お菓子をありがとう」とあり、それから本題になっている。お菓子はこんなにも子どもにとって嬉しいものなのかと思う。それで喜んで下さるならとても有意義だと思っで行っている。また、地域で生涯学習として取り組んでいる食育に関して、公民館がないところには集会所で実施し、男性も含め身近に料理が学べるようにしている。すると、男性が関心を持って参加して下さるため、いい取組だと思う。これからは男女共同参画の社会のため、ずっと継続して頂きたい。子どもとのコミュニケーション、地域とのコミュニケーションのためにも、声を掛けて、男性も女性も子どもも一緒に料理ができるように計画の中に取り入れて頂きたいと思う。

会 長

男女共同参画という文言がどうなのかということである。

P委員

いろいろな人の見方、意見がありこの計画になり、今後、パブリックコメントになるわけだが、地域の人がそれを理解できないと意味がなくなってしまう。自分は地域の1人に入っているわけだが、学校に注目すると、行事があれば、家の方が揃って来て下さる。それぞれの地域で、各計画があると思うが、その計画を地域の人が理解してこそ、協力が得られるということが身を持って感じた。今後、よりたくさんの方に届けて頂きたいと思う。

A委員

いい方向に行っていると思う。皆さんの意見が反映され、会長さんのリーダーシッ

プでここまで来たと思う。P. 26 (図) について、非常にいいと思う。多くのパンフレットは学校や行政が上に来て、それを支えるものとして家庭や地域があるが、地域・家庭が上に来ていることは大賛成である。家庭が真ん中に来ていることはいいと思うが、家庭の背景が家ではなく、矢印に見えるため、家らしくした方がいいのではないだろうか。学校の文言で「社会の変化に柔軟に対応し、個々の発達段階に応じた」とのことだが、特別支援教育では、教育的ニーズという言葉が学校現場ではよく使われる。発達障がいの子もだけでなく、すべての子どもに親も教育的なニーズがある。「発達段階や教育的ニーズに応じた」と表現頂けるとありがたい。行政の文言で2つ目だけが「ネットワークづくりの支援」と名詞で終わっているため、「ネットワークづくりを支援する」の方がよいのではないだろうか。P. 27の(2)①にも「一人ひとりの発達段階や教育的ニーズに応じた教育の充実」として頂ければと思う。P. 41 には教育的ニーズが表現されているため、前にも入れて頂ければと思った。P. 33 の食育について、課題の文言で、「家庭や学校において、生涯を通じて健康な望ましい食習慣を身に付けることが必要です。」とある。食に関わる人々に対する感謝の気持ちを子ども達はあまり分らない。農家の方や漁業に関わっている方々、生産者の思いもあるため、可能なら、「健康な望ましい食習慣を身に付けることや食に関わる人々への感謝の気持ちを育むことが必要です。」といった文言がこれからは必要なのではないだろうか。P. 37 の成果目標・成果指標の中に、学力は教師の責任のため、教師の授業力という言葉を入れて頂ければありがたいと思う。P. 38 のICT教育の課題の3つ目について、2行目の「伺えます」はこの漢字でいいのだろうか。平仮名の方がいいのではないだろうか。P. 41 の特別支援教育の成果目標・成果指標について、「特別支援教育に関する満足度を向上させます。」とあるが、地域の人や家庭も含んでいると考えると、ユニバーサルデザイン普及、ノーマライゼーション社会の実現を入れた方がいいのではないだろうか。P. 49 の成果目標・成果指標について、これは学校の先生だけではできない。いじめる側の家庭の方にも考えてほしいし、傍観者の家庭、地域の方にも考えてほしいため、共育ということを考えて、すべての人がいじめをなくすことの実現、努めるということを表記することで、みんなでやるということを強調できればと思う。

会 長

皆さんのご意見、本当にありがたいことである。今後、パブリックコメントにかけた後、文言修正等について、一任させてもらってもよいか。

委員皆様 異議なし

- 4 その他として、事務局より資料5に基づき今後のスケジュールについて説明した。審議会については、パブリックコメント終了後、2月初旬に実施予定と伝えた。

5 閉会